

知見をつなぎ
安全の輪を広げる

JANSI On-Line

第26号
2026.10

ともに築く
未来へ

つながる まなぶ ひろげる

1 日米CNOリーダーシップ会議



知見共有



原子力のより高い安全へ

2 社長研修



トップの
対話で
より高い安全へ

3 女性運転員・技術系女性社員 意見交換会



in 柏崎刈羽発電所

つながる
広がる
キャリアの未来

4 第205回 安全キャラバン



講演と
パネルディスカッション

組織文化と
コミュニケーション

5 第206回 安全キャラバン



安全文化
アセスメント研修

分析から
気づきへ

6 第19回 安全文化ワークショップ



グループワークで
リーダーシップを育む

対話が
つくる
安全文化

7 安全啓発ポスター No.47



思い込み・過信

気づきが
ヒューマンエラーを
防ぐ

人と知見をつなぎ
より高い安全をともに

8 理事・監事選任



次の世代へ
つなぐ

持続的な
組織運営

9 日本の原子力施設の状況



安全なエネルギーで
豊かな未来を

一歩ずつ、
より高い安全な未来へ



日米CNOリーダーシップ会議を開催

2026年10月1日、2日に、日米CNOリーダーシップ会議を開催しました。

本会議は今回で13回目となり、米国に加えて、カナダ、フランスの事業者から10名、日本のCNO10名参加。ここ数年で参加者は最大規模となりました。

海外からの参加者は、東海第発電所と福島第一原子力発電所を視察し、会議では「福島第一発電所事故の教訓」と「発電所パフォーマンス改善」にかかわる6つのテーマで意見交換を行いました。



会議の様子

社長研修を開催

2026年9月17日に社長研修を開催しました。

本研修は、原子力事業者のトップが一堂に会し、原子力安全に関するタイムリーなテーマについて意見交換を行い、意識・価値を共有する場として開催しています。

今回は、JANSIウェブスター会長より、米国原子力産業界が長年にわたり安全文化や継続的改善の考え方をどのように進化させてきたかを紹介した後、同竹越常務執行役員より、JANSIから見た日本の原子力産業界の現状と将来にむけ強化すべき組織能力について説明しました。

その後の意見交換では、原子力産業界の目指す姿に向かうにあたって、重要と考える組織能力や経営課題、社長としての関与、JANSIへの期待事項などについて参加者間で共有し、相互理解を深めました。



リーダーシップ研修については、[こちら](#)をご覧ください。



講演の様子

2026年度 原子力発電所女性運転員（技術系女性社員）意見交換会を開催

2026年9月15日、16日に東京電力HDのご協力の下、柏崎刈羽原子力発電所、BWR運転訓練センター他にて、2026年度女性運転員（技術系女性社員）意見交換会を開催し、女性運転員や技術系女性社員ら計41名が参加しました。

柏崎刈羽原子力発電所6・7号機の現場視察やBWR運転訓練センターの見学に加え、女性放射線業務従事者の被ばく線量限度に関する制度見直し動向等の情報共有のほか、福島第一原子力発電所事故当時、1、2号機の当直長を務めていた伊澤郁夫氏による基調講演、大阪大学八木絵香教授ファシリテートによる意見交換など多彩にわたるプログラムを実施しました。

参加者からは、キャリアビジョンや職場環境に関する悩みや気づきを共有し、課題解決につなげる場として、本活動の継続を望む意見が多く寄せられ、女性運転員・技術系社員がより活躍できる職場づくりに向けた有意義な意見交換の場となりました。



第205回安全キャラバンを実施

2026年7月15日、株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンにおいて、第205回安全キャラバンとして、安全講演会とパネルディスカッションを行いました。

安全講演会では「日々の行動から考える組織文化とコミュニケーション」と題して、JANSI職員による講演を行い、パネルディスカッションでは、「私たちの強みは、気づかないうちにリスクを見えなくしていないだろうか」をテーマに議論を行いました。

- ・安全文化醸成活動については[こちら](#)
- ・第205回安全キャラバンの詳細は[こちら](#)
- ・安全キャラバンの実績は[こちら](#)



パネルディスカッションの様子

第206回安全キャラバンを実施

2026年9月8日、9日に関西電力株式会社 原子力事業本部において、第206回安全キャラバンとして、安全文化アセスメントワークショップを行いました。

ワークショップは2部構成で行い、安全文化、安全文化アセスメントの基本的知識に関する講義と模擬データを使ってのアセスメント分析（例）演習を行いました

安全キャラバンは、安全文化醸成活動の支援の一環として行っており、安全意識の徹底、会員間の安全文化の共有化・向上を図るため、会員事業所を訪問し、安全講演会や事業所の関係者と安全教育教材の相互紹介や意見交換などを行っています。



- ・安全文化醸成活動については[こちら](#)
- ・第206回安全キャラバンの詳細は[こちら](#)
- ・安全キャラバンの実績は[こちら](#)



ワークショップの様子

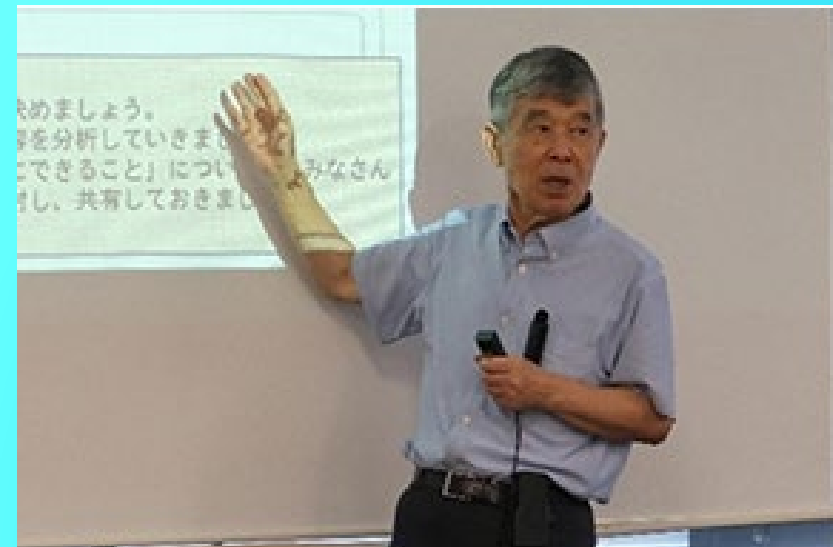
第19回安全文化ワークショップを開催

2026年8月5日（水）、6日（木）の2日間にかけて中間管理職や各職場のリーダー的な方々を対象として、第19回安全文化ワークショップ（基礎編）を開催しました。

「組織の活性化と安全文化の創続」をテーマに、リーダーシップの基礎、リーダーシップと集団理解、リーダーシップと組織の活性化に関わる情報提供とグループワークを行いました。

「基礎編」では、受講者の方々に各自が職場において実践する行動目標を設定していただきました。その行動目標の実践の成果を11月16日（月）、17日（火）に開催する「フォローアップ編」で、振り返りと分析を行うことにしています。

- ・安全文化ワークショップの実績については[こちら](#)
- ・第19回安全文化ワークショップの詳細は[こちら](#)



熊本大学名誉教授 吉田先生によるユーモアを交えた説明

安全啓発ポスター「No.47 思い込み・過信」を発行

事例分析結果から得られた教訓をもとに、ヒューマンファクターに焦点を当てて作成した掲示用ポスターを、「Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室」としてシリーズ化して紹介しています。

今回、エラーの芽として取り上げたのは、「思い込み・過信」です。
早くやらなければと焦っているとき、普段うまくやっていると楽観しているときなどに、事実の検証を伴わない推論を事実と信じる「思い込み」や過去の成功体験、類似経験によって引き起こされる「過信」は起こります。状況の見える化、事前打合せ、3-Wayコミュニケーションなどを活用し、「思い込み・過信」によるヒューマンエラーを防ぎましょう。

- ・安全啓発ポスター No.47 思い込み・過信は[こちら](#)
- ・安全啓発ポスターのバックナンバーは[こちら](#)



理事および監事選任のお知らせ

10月1日付にて、臨時社員総会(書面などによる開催)における決議により、新たに理事1名及び監事1名が選任され、就任しましたのでお知らせいたします。

理事(非常勤)

中村 典弘 (新任)

九州電力株式会社 代表取締役 社長執行役員

監事 (非常勤)

岸本 真次郎 (新任)

三菱原子燃料株式会社 代表取締役社長



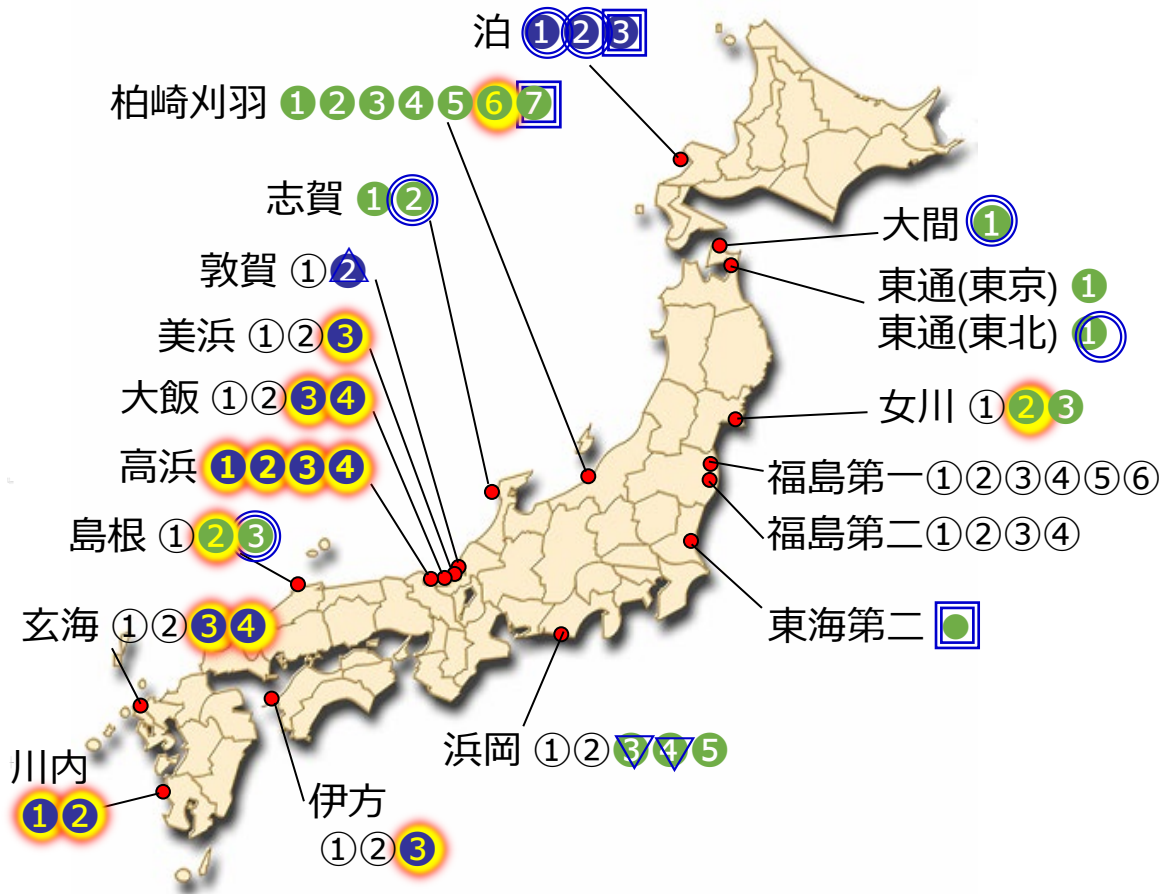
トピックス<2026年第2四半期>

- 07/14 京都地方裁判所は、京都府の住民らが大阪原子力発電所3, 4号機の運転差し止めを求めた裁判で、訴えを退ける判決を言い渡した。原告は、控訴する考えを示した。
- 09/11 中国電力株式会社は、島根原子力発電所3号機の原子炉設置変更許可申請に係る補正書を原子力規制委員会に提出したことを発表した。本補正書はこれまでの審査会合において議論された内容を反映したもので、9月10日の会合においてすべての審査項目の確認が終了していた。原子力規制委員会が正式に合格とした場合、福島第一原子力発電所の事故以降、全国で新たに運転を始める初の原子力発電所となる可能性がある。
中国電力は、地元などに同意を求めるとともに、2030年度までの運転開始を目指すとしている。
- 09/11 中部電力株式会社は、原子力規制委員会による原子炉等規制法に基づく浜岡原子力発電所3号機・4号機の新規制基準適合性審査において、浜岡原子力発電所の地震動の評価を不適切な方法で実施していた事案に関して、独立した外部専門家のみで構成される調査委員会から調査報告書を受領したことを発表した。9月14日には、調査報告書を公表するとともに、再発防止策の方向性を示した。また、10月1日付での勝野会長、林社長の退任と安井氏の社長就任を発表した。
- 09/25 中部電力株式会社は、一連の不適切事案及びその調査報告書の受領を受け、原子力規制委員会へ申請している浜岡原子力発電所3号機・4号機の新規制基準に係る原子炉設置変更許可申請書などについての申請取下げを原子力規制委員会へ提出したことを発表した。



原子力発電所の状況

- 新規規制基準適合性に係る申請を27基(PWR:16基、BWR11基)が実施
うち、18基(PWR13基、BWR5基)が許可済み（再稼働は15基）。6基は審査中。その他3基。
- 中部電力は一連の不適切事案を受け、浜岡原子力発電所3号機、4号機について、申請を取り下げ
- 福島第一原子力発電所事故前は、運転が54基、建設が3基、廃炉が2基



プラント状況		PWR (●)	BWR (●)	合計
再稼働 :		12	3	15
許可済 :		1	2	3
審査中 :		2	4	6
その他	不許可 : △ (追加調査中)	1	0	1
	取り下げ : ▽	0	2	2
未申請		0	9	9
廃 炉 : ○		8	15	23
合 計		24	35	59



※ 2026.9現在（3基の建設中プラントを含む）